

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年11月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋なす JAめぐみの就農塾

11月12日に、関市小瀬の夏秋なすほ場にて、第6回就農塾夏秋なすコースが開催され、2名の受講生が出席した。

今回は、栽培終了後の片付け、次作のための土壌診断についての研修が行われた。効率的に作業を進めていくために、順番を考えながら片付け作業を行った。受講生は、土壌診断に用いる土壌の採取方法、提出前の調製方法等について積極的に質問する姿が見られた。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を継続し、受講生のスムーズな就農を支援していく。

(地域支援係)



【片付け作業の様子】

■円空さといも 瀬尻小学校で学習会を実施

11月6日、17日に、関市立瀬尻小学校で「円空さといも」についての授業が開催された。

関市立瀬尻小学校では、総合的な学習の時間を利用して、毎年3年生の児童が地域の特産品である「円空さといも」の学習を行っている。11月6日には座学によるさといもの歴史や流通などの授業、17日には掘り取り体験授業が行われた。

掘り取り体験当日は、生産者、JAめぐみの、農業普及課が講師となって作業方法を説明した後、児童らは大きくなったさといもに苦戦しながら掘り取り作業を行った。4月に自分たちで植え付けしたさといもが、思いのほか大きく育ったことに驚くとともに、収穫の喜びを感じているようであった。

農業普及課では、地域の特産品である円空さといもの普及に向けて、今後も関係機関と連携して栽培学習を支援していく。

(地域支援係)



【学習会の様子】

■農福連携 イベントでのPR活動

11月9～10日の両日、「関にし秋の祭典 in 洞戸」に農業振興課と連携して出展し、約150名に対して農福連携に係る取組みについてPRした。

当日は、掲示したパネルをじっくりご覧いただくことで回答ができるよう工夫した簡単なクイズ形式によるアンケートを実施した。

また、アンケートに答えていただく際には、本県の農福連携推進に係る取組みや、農業者や農業者団体と福祉事業所の連携による取組み、福祉事業者の農業参入の現状などを解説し、理解を深めていただいた。

多くの方に熱心に説明を聞いていただき、「こうした取組みを進めていることは知らなかった」「よい取組みを進めているね」などの意見をいただいた。中には、「こうした取組みを行うためにどんな支援があるか」など、高い関心を示された方もあった。

農業普及課では、今後も関係者を招集した連携会議などの開催を通して、農業と福祉の発展を進めていく

(地域支援係)



【説明とPRを実施】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 産地研修会の開催

11月14日、JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会は、キウイフルーツの販売先の一つであるコープぎふの関係者との産地交流会を開催した。

コープぎふは、「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」のパートナー企業に登録していただいております。天候不順や資材の高騰など厳しい栽培環境にある産地や生産者の現状について、生産部会員との意見交換を通して理解を得られた。

農業普及課からは、県の「農産物ブランド化事業」等の取組みを通して、電動式剪定バサミの普及や有機質肥料の利用を推進することで、省力的で環境に配慮した生産性の高い産地作りの推進を紹介した。

また、作業動画の撮影、作業内容の手順化により、経験が浅くてもキウイ栽培に携われよう新規就農者にやさしい環境づくりにも取り組んでいることに興味を持ってもらい、産地と消費者が連携して洞戸のキウイ産地を盛り上げていくことを確認した。

(地域支援係)



【研修会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■水田の維持 営農グループ育成と水稻栽培指導

11月13日、関市板取の白谷地区において、地域の水稲栽培の維持を目指す有志7名（当日は5名が集合）に対し、水稻栽培に係る指導を行った。

当地区では、約1.5haの水田耕作者が急きょ亡くなり後継者が不在であったため、地域の水稲栽培を守りたいと有志7名が立ちあがったものの経験が乏しく、本格的に水稻栽培を学びたいとして、関市を介して要請があった。

当日は、栽培暦や収支の試算表などを配布し、年間の作業や肥培管理や病虫害雑草管理などを解説した。また、必要な機械や発生する経費などについても指導した。また、当面の必要作業を指示するとともに次年度の肥料等の手配なども助言した。

引き続き、定期的な勉強会の開催を提案し、確実に栽培技術を身に付けていただけるよう支援する。また、将来に向けた組織化についても順次提案していく

(地域支援係)



【水稻作業の勉強会】